

IIRCフレームワーク研究の 現状と課題

令和3年7月12日(火)

専修大学経営研究所第1回定例研究会

於:専修大学(オンライン)

専修大学大学院商学研究科博士後期課程

古川原 駿

アドレス:s.furukawahara@gmail.com.

目次

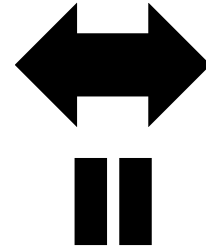
1. 問題提起
2. 統合報告の情報開示と情報利用
3. 情報開示と情報利用に基づく課題
 - 3.1. 情報開示に関する課題
 - 3.2. 情報利用に関する課題
 - 3.3. その他の課題
4. 未解決の課題
5. まとめ

1.1. 問題提起

項目 \ 報告書	財務報告書	サステナビリティ・レポート	統合報告書
報告対象	特定のステークホルダー (株主と投資家)	多様なステークホルダー (社会・環境の視点)	主として財務資本提供者
強制/任意	強制	任意(例外としてデンマーク、 スウェーデン、フランス)	任意(例外として南アフリカ)
規制/ガイドライン	国内・国際法とGAAP (あるいはIAS/IFRS)	GRI	IIRCフレームワーク
比較可能性	高い	中程度	低い
業種別カスタム化	低い	中程度(業務補足資料)	低い
保証レベル	高い	低い	低い
視点	財務報告実体 (企業と企業グループ)	財務報告実体よりも広い (サプライチェーン、 LCAアプローチ)	財務報告実体よりも広い (サプライチェーン、 LCAアプローチ)

1.2. 問題提起

財務報告書



サステナビリティ・レポート

統合報告書
(IIRCフレームワーク)



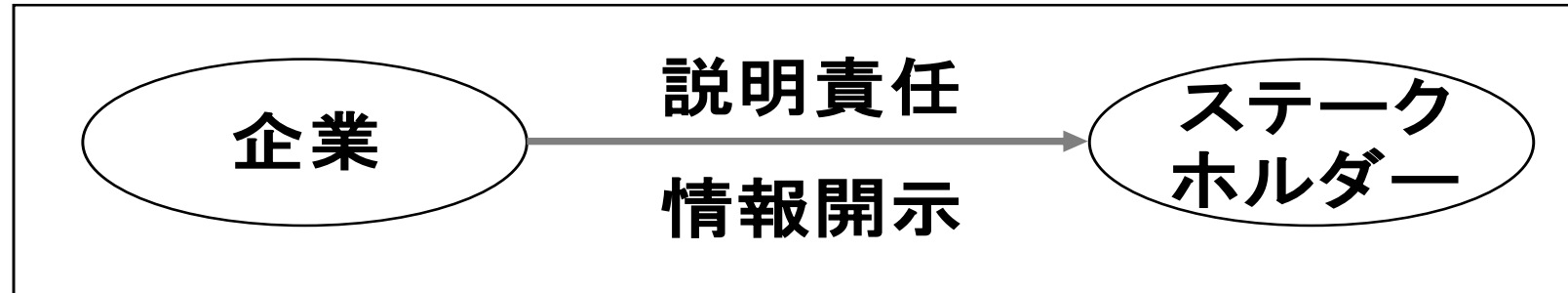
IIRCフレームワークの課題を情報開示と情報利用に再整理し検討



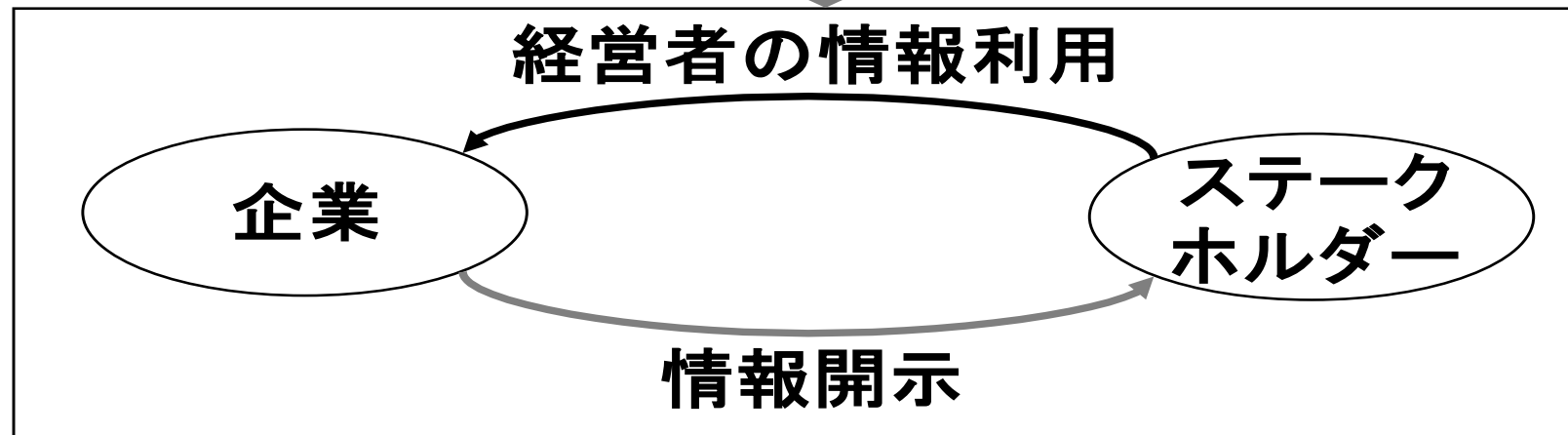
文献研究に基づいて、現在解決された課題と未解決の課題を明らかにする

2. 統合報告の情報開示と情報利用

ステークホルダーへの情報開示



経営者の情報利用



3.情報開示と情報利用に基づく課題

3.1. 情報開示に関する課題

- ・情報の質
- ・開示規制

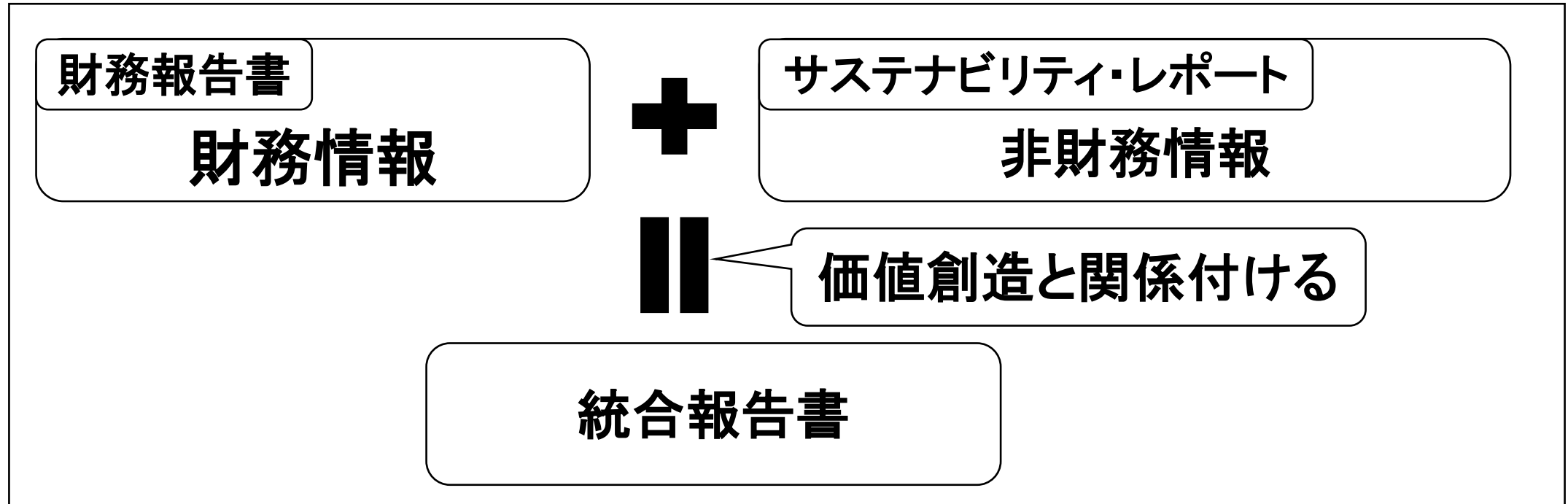
3.2. 情報利用に関する課題

- ・開示対象
- ・価値創造

3.3. その他の課題

- ・管理会計への影響
- ・統合報告とは何か

3.1.1. 情報の質・・・情報開示

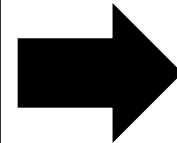


統合報告書によって、財務報告書やサステナビリティ・レポートよりも情報の質が改善する

3.1.2. 開示規制・・・情報開示

- Stubbs and Higgins(2018)の調査

・強制開示→5人
・任意開示→11人
・折衷開示→6人



一致した見解がない

- 企業独自の戦略を開示する必要がある



戦略を含む価値創造の可視化を行うのであれば、任意開示をとるべきである

3.2.1. 開示対象・・・情報利用

- IIRC(2011)
→ステークホルダー志向
- IIRC(2013)
→投資家志向

- Ito and Iijima(2018)
→統合報告書の開示対象がステークホルダーであり、エンゲージメントに報告の役立ちがある

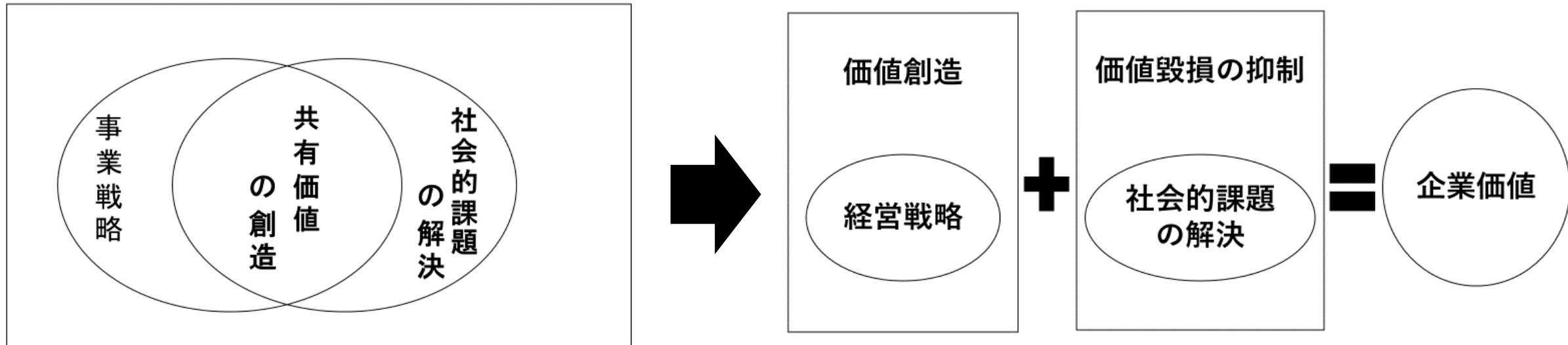


統合報告書を戦略修正などの情報利用に用いる



統合報告書は、ステークホルダー志向が重要

3.2.2. 価値創造・・・情報利用



価値創造と価値毀損の抑制を価値創造と考えるべきである

3.3.1. 管理会計への影響・・・その他

- Giovannoni and Pia Maraghini(2013)
→BSCを用いた統合型業績測定システムの採用が統合報告書の作成に有用
- Stubbs and Higgins(2014)
→組織変革を起こすという仮説検証



統合報告書の作成が管理会計研究に影響を及ぼす

3.3.2. 統合報告とは何か・・・その他

- One Report(Eccles and Krzus, 2010)
→財務情報と非財務情報を1つの報告書で開示
- Kings Reports
→南アフリカで財務報告書とサステナビリティ・レポートの代わり
として強制開示
- IIRCフレームワーク



IIRCフレームワークに収斂している

4.1. 未解決の課題・・・情報の結合性

- ・梅田他(2020)
 - 情報の結合性が他の指導原則と比較して重視されていない
- ・伊藤(2021)
 - 日本企業では、情報の結合性が十分にとれていない



日本企業は財務情報と非財務情報を関係付けて価値創造を明らかにするという
統合報告書の作成意図を無視している

4.2. 未解決の課題・・・統合思考

- IIRCフレームワークの定義
- VRF(2021)
 - トップ、ミドル、ローアの階層ごとに6つの構成要素(パーパス、リスクと機会、ガバナンス、戦略、文化、業績)を結合すること
- Stubbs and Higgins(2014)の内部メカニズム
 - 6つの内部メカニズム
 - インサイドアウト・アプローチ
 - 組織横断的な報告書の作成
 - 報告書作成のための委員会新設と専門部署の設置
 - 戦略的課題のマテリアリティの識別
 - 財務情報と非財務情報の関係付け
- 伊藤(2014)の統合型マネジメントシステム
 - 戦略の策定と実行を統合したマネジメントシステム



統合思考に統一した見解がない

4. まとめ

問題提起:IIRCフレームワークで現在解決された課題と未解決の課題を明らかにする

1. 情報開示に関する課題(情報の質と開示規制)
 - ・情報の質・・・財務報告書と比較して価値創造を明らかにする点で改善された
 - ・開示規制・・・戦略の開示のためには任意開示でなければならない
2. 情報利用に関する課題(統合報告書の開示対象と価値創造)
 - ・開示対象・・・統合報告書を情報利用に用いるためにはステークホルダー志向
 - ・価値創造・・・価値創造と価値毀損の抑制を価値創造と考える
3. その他の課題(作成段階での管理会計の影響と統合報告とは何か)
 - ・管理会計への影響・・・組織変革を引き起こす
 - ・統合報告とは何か・・・IIRCフレームワークに収斂している

残された課題

- ・実務で情報の結合性のとれた価値創造のモデルがない
- ・統合思考に統一した見解がない

参考文献(1)

- Dumay, J., C. Bernardi, J. Guthrie and M. L. Torre (2017) Barriers to Implementing the International Integrated Reporting Framework: A Contemporary Academic Perspective, *Meditari Accountancy Research*, Vol.25, No.4, pp.461-480.
- Eccles, R. G. and M. P. Krzus (2010) *One Report: Integrated Reporting for a Sustainable Strategy*, John Wiley & Sons.
- Fasan, M. (2013) Annual Reports, Sustainability Reports and Integrated Reports: Trends in Corporate Disclosure, in Busco, C., M. L. Frigo, A. Riccaboni and P. Quattrone (Eds.) (2013) *Integrated Reporting: Concepts and Cases that Redefine Corporate Accountability*, Springer.
- Giovannoni, E. and M. Pia Maraghini (2013) The Challenges of Integrated Performance Measurement Systems: Integrating Mechanisms for Integrated Measures, Accounting, *Auditing & Accountability Journal*, Vol.26, No.6, pp.978-1008.
- Gokten, S. and Gokten, P. O (2017) Value Creation Reporting: Answering the Question „Value to Whom” according to the International Integrated Reporting Framework, *Theoretical Journal of Accounting*, Vol. 91, No.147, pp.145-170.
- Green, W. J. and M. M. Cheng (2019) Materiality Judgments in an Integrated Reporting Setting: The Effect of Strategic Relevance and Strategy Map, *Accounting, Organizations and Society*, Vol. 73, pp.1-14.
- IIRC (2011) *Towards Integrated Reporting: Communicating Value in the 21st Century*, International Integrated Reporting Committee.
- IIRC (2013) *The International <IR> Framework*, International Integrated Reporting Council.

参考文献(2)

- IIRC (2021) *International <IR> Framework*, International Integrated Reporting Council.
- Ito, K. and M. Iijima (2018) The paradigm Shift from Financial Reporting to Integrated Reporting, *Journal of Human Resource Management*, Vol. 6, No. 3, pp.85-94.
- James, G., M. R. Francesca and L. Rebecca (2017) Integrated Reporting and Integrated Thinking in Italian Public Sector Organizations, *Meditari Accountancy Research*, Vol.25, No.4, pp.553-573.
- Porter, M. E. and M. R. Kramer (2011) Created Shared Value, *Harvard Business Review*, January-February, pp.62-77.
- Stubbs, W. and C. Higgins (2014) Integrated Reporting and Internal Mechanisms of Change, *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, Vol.27, No.7, pp.1068-1089.
- Stubbs, W. and C. Higgins (2018) Stakeholders' Perspectives on the Role of Regulatory Reform in Integrated Reporting. *Journal of Business Ethics*. Vol. 147 Issue 3, p489-508.
- VRF (2021) *Integrated Thinking Principles Supporting Holistic Decision-Making Prototype 2021*, Value Reporting Foundation.
- 伊藤和憲(2014)『BSCによる戦略の策定と実行:事例で見るインタンジブルズのマネジメントと統合報告への管理会計の貢献』同文館出版。
- 伊藤和憲(2021)『価値創造のための統合報告-情報開示から情報利用へ-』同文館出版。
- 梅田宙・西原利昭・梅田充・伊藤和憲(2020)「日本企業の統合報告の現状-「統合報告」に関するアンケート調査結果をもとに-」『産業経理』Vol.80, No1, pp.170-189。